

支那時局報告會議筆記

昭和二年六月一日

国立公文書館  
利用上の注意

本館は、非公開の席上における発言を記録したものであります。したがって当該発言者の共同著作物と解されますので、引用等発表に際し著作権法上の問題の生ずることのないよう特に御配慮願います。

国立公文書館

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 分類   |                         |
| 配架番号 | 2 A<br>15-10<br>⑧ D 610 |

樞密院會議筆記

支那時局報告

昭和二年六月一日(水曜日)午前十時十分開會

出席員

倉富議長

平沼副議長

大臣

田中

内閣總理大臣  
兼外務大臣

白川陸軍大臣

顧問官

伊東顧問官

久保田顧問官

富井顧問官

石黒顧問官

珍田顧問官

山川顧問官

古市顧問官

松室顧問官

江木顧問官

内田顧問官

八代顧問官

櫻井顧問官

田 顧問官

荒井顧問官

石原顧問官

委員

井出陸軍歩兵少佐

二上書記官長

書記官

村上書記官

堀江書記官

堀江

359

倉富議長

昨日御通知シタル通り之ヨリ支那

ノ時局ニ關シ内閣總理大臣及陸軍大臣ノ御

報告アルヘキニ付御聴取ヲ請フ

田中

内閣總理大臣  
兼外務大臣

今日御參集ノ機會ニ於テ

余ハ外務大臣トシテ支那出兵ノ經過ニ付説

明スヘシ過日陸軍大臣ヨリノ報告ニ依リ支

那ノ軍事状況ノ大體ヲ御諒解アリタルコト

ト信ス其ノ後津浦鐵道ノ北方即チ山東方面

ノ戦況愈山東軍ノ為ニ不利ト為リ殊ニ張宗

昌ノ軍隊ハ極メテ不規律ニシテ素質惡キカ

故ニ特ニ注意ヲ要スト考ヘ居タルカ果然今  
ヤ徐州全ク南軍ノ手ニ歸シ北軍ハ退キテ哀  
州ニ於テ南軍ヲ阻止セムトノ意圖ナルカ如  
キモ果シテ其ノ通リト為ルヤ否ヤ何分支那  
ノ軍事上ノ動靜ハ容易ニ豫測シ難シ然ルニ  
濟南ニハ約二千ノ日本人居住シ漸次同地  
方ニ日本ノ經濟的基礎ヲ扶植シツツアリ此  
ノ居留民ノ生命財産ヲ保護スル上ニ於テ再  
ヒ南京事件ノ如キ不祥事ヲ發生スルノ虞ナ  
キヤ懸念ニ堪ヘズ加之長江沿岸ノ事態發生

以來所謂共產派ノ軍隊カ一時横暴ヲ極メタ  
ル時代ニ於テモ支那人ハ日本ハ消極的ニシ  
テ隱忍ヲ事トスルモノノ如ク思惟シ又常ニ  
右様ノ趣旨ヲ宣傳スルト共ニ何トナク我ニ  
對シ輕侮ノ念ヲ抱ケルカ如シ是レ畢竟不祥  
事ヲ誘發スル原因ノ一トモ認メラルヲ以  
テ濟南ニ於テ忌ムヘキ事態ヲ發生セサル様  
豫メ保護ノ手段ヲ講セサルヘカラストノ見  
地ヨリ去月二十八日勅裁ヲ經テ取り敢ヘズ  
滿洲ヨリ約二千ノ兵ヲ差向ケ濟南居留民ノ

生命財産ノ保護ニ當ラシムルコトセリ青  
島濟南間ノ距離ハ濟南徐州間ノ距離ニ略等  
シク若シ徐州混亂ニ陷リ山東軍退却ノ時ニ  
到リテ滿洲ヨリ出兵スルニ於テハ約五日間  
ヲ要シ濟南保護ノ間ニ合ハサルヘキ力故ニ  
其ノ準備行為トシテ取リ敢ヘス右二千ノ兵  
ヲ青島ニ移動シ置キ而シテ徐州方面ノ戰況  
ヲ見必要ニ應シテ直ニ鐵道輸送ニ依リ機ヲ  
逸セス濟南ニ着セシメ得ヘシトノ計算ノ下  
ニ客月二十九日軍部ニ於テ出動ノ命令ヲ出

シタレハ恰モ今日ハ右ノ兵員全部青島ニ到  
着スルコトト為レリ  
右ノ處置ヲ執ルニ付テハ余ハ勅裁ヲ經ル  
ト共ニ外務大臣トシテ英米佛伊ノ四國大使  
ヲ外務省ニ集メ日本カ今回出兵ヲ為スノ已  
ムナキニ至リタル事情ヲ説明シ又此ノ出兵  
ハ濟南ニ於ケル居留民ノ生命財産ノ保護ノ  
外絶對ニ他意ナキコトヲ明ニシ且此ノ目的  
ヲ達シタル上ハ直ニ撤退セシムヘキ旨ヲ併  
セテ聲明セリ此ノ事ハ既ニ聲明書ヲ以テ公

表シタレハ各位ニ於テモ御覽アリタルコト  
ト存ス尚右ノ出兵ノ外戰況ノ推移ニ依リ更  
ニ天津北京方面ニ若干ノ兵ヲ送ルノ必要アル  
ルヘク即チ今日青島ニ差向ケタルト畧同數  
ノ兵ヲ必要ニ應シ北清ニ送ル計畫ナルカ之  
ハ今後ニ於ケル時局ノ推移ニ伴ヒ更ニ御裁  
可ヲ得テ決行スル筈ナリ又今回ノ出兵ニ付  
テハ政府ハ歐米諸國ノ大使ニ對シ前述ノ手  
續ヲ為スト共ニ支那ニ對シテモ北京公使並  
濟南及上海ノ總領事ヲ通シ南方即チ蔣介石

方面及安國軍即チ張作霖方面ニ夫々我カ聲  
明ノ趣旨ヲ委曲説明セシメタルカ其ノ結果  
今日迄ニ起レル反應トシテ北京政府ノ顧維  
鈞カ我カ公使ニ抗議ヲ申込ミタルニ由リ我  
カ公使ヨリ南京漢口其ノ他ノ方面ノ事態ニ  
鑑ミ日本カ此ノ際自衛權ヲ行使スルノ己ム  
ヲ得サル次第ヲ説明セリ又張作霖ハ何トナ  
ク日本ノ出兵ヲ不快トスルカ如キ口吻ヲ洩  
シタルカ是レ亦我カ公使ノ説明ヲ諒解シ張  
宗昌ニ對シ日本人ニ危害ヲ加フヘカラスト

訓令シ北京ニ於ケル支那新聞紙上ニ此ノ事  
ヲ論議スルヲ禁シ居ルカ如シ故ニ北方ニ於  
テハ大體日本ノ處置ヲ已ムヲ得サルコトト  
認メ南方ニ於テモ上海ニ在リテハ學生中ニ  
反對ノ言論ヲ為ス者アルモ商民ハ已ムヲ得  
サルコトト考ヘ居ルカ如シ最近五月三十日  
ハ同地方ノ勞働者ノ記念日ニ付珍事出来セ  
サルヤヲ懸念シタルモ終ニ何事モナク無事  
ニ經過シタリ蔣介石ノ方面ヘハ矢田上海總  
領事ヲ通シ又他ノ方法ヲ以テ右ノ事情ヲ諒

解セシメタリ然ルニ南京政府ノ外交擔任者  
ヨリ矢田總領事ニ對シ抗議的意見ノ申出ア  
リタルヲ以テ同領事ヨリ委細釋明ヲ為シタ  
リ次ニ今回ノ日本ノ處置ニ對シ英國ハ寧ロ  
之ヲ歡迎シ米國モ亦已ムヲ得スト認ムル旨  
國務長官ヨリ松平大使ニ談話アリタリ佛伊  
兩國方面ノ反應ニ付テハ未タ特別ノ報告ナ  
キモ曩日余カ兩國大使ニ説明シタル時ノ狀  
況ニ依レハ孰レモ能ク諒解シタルコトト察  
セラル

青島ニ到着セル我軍隊ヲ更ニ濟南ヘ向ケ移動セシメムトノ考ハ今日ニ於テハ未タ之ヲ有セス却テ其ノ事ナキヲ希望スル次第ナルカ今後山東方面ノ状況如何ニ由リ或ハ其ノ必要ヲ見ルヤモ知レス而シテ大局ヨリ見レハ奉天軍方面ノ勢日々縮ルノ觀アリ後ニ陸軍大臣ヨリ詳細報告アルヘキモ其ノ西方ノ主力部隊ハ既ニ黃河ノ北方迄退キツツアリ此ノ邊ニテ蹈留マリ得サルトキハ北軍ハ更ニ天津ノ西保定ト濟南天津間ノ德州トノ線

ニ於テ何等カノ防止手段ヲ講スヘシトノ情報アルモ果シテ其ノ可能ナルヤ否ヤ豫測シ難ク若シ其ノ場合ニ際會セハ安國軍即チ張作霖側ハ再ヒ滿洲ニ撤退スヘク然ラハ此ニ又新ナル紛擾起リ日本ノ立場トシテハ何等カ之ニ應スルノ處置ヲ講スルノ必要ヲ生スルノ懸念アリ又今日日本カ二千ノ兵ヲ青島ニ出シ更ニ北清方面ニ同數ノ兵ヲ送ルノ必要アル場合ニ於テ若シ安國軍カ彼ノ方面ニ移動スルカ如キ事態トモナラハ我カ滿洲ニ

於ケル守備手薄ト為ルヘク從テ相當ノ兵力  
ヲ補充スルノ必要アリト思ハルルモ此ノ處  
置ニ付テハ政府ハ更ニ適當ノ時機ヲ待テ之  
ヲ決定セムトス  
シ  
今回ノ出兵ノ經過ノ大要以上述フル所ノ如

白川陸軍大臣 前回報告シタル以後ニ於ケル  
支那南北戰況ノ大體ヲ申述フヘシ  
先ツ津浦線方面ニ於テハ山東軍ハ蚌埠ノ北  
固鎮附近ニ陣地ヲ占メタルニ其ノ主將タル

張宗昌ハ元來戰術ノ能力乏シク軍隊ノ指揮  
完カラス加之部下指揮官相互間ニ意思ノ疏  
通ヲ缺キ又給與不良ニシテ一般ノ士氣頗廢  
セルカ故ニ最早充分ニ戰爭ヲ為スヲ得サル  
カ如キ狀況ト為レリ故ニ彼ハ一旦徐州ニ兵  
ヲ集メ得タルニ拘ラス内部ニ爭鬭起リ五月  
二十五日以來混亂ヲ來シタル為同所ヲ棄テ  
テ袁州ニ退クニ至レリ尚今朝ノ情報ニ依レ  
ハ此ノ附近ノ飛行機濟南ニ歸リタルヲ以テ  
張宗昌ニ近日中ニ濟南ニ歸ルナラムトノ噂

アリトノコトナリ蒋介石ノ南京軍ハ五月二十三日蚌埠ヲ拔キ固鎮ノ山東軍ニ向テ攻撃ノ準備ヲ為シタルカ蒋介石ハ慎重ノ態度ヲ執リテ夫ヨリ遠ク前進セス西方奉天軍ト漢口ヨリ北進セル唐生智軍トノ戦況ノ發展ヲ待テルカ如シ蒋介石ノ考ニテハ徐州ノ攻略ヲ以テ戦争ノ一段落ト為シ爾後ハ専ラ内部ノ整頓ニ當ルヘシトナリ孫傳芳軍ハ淮陰附近ニ兵ヲ集メ更ニ北方ニ退却ヲ始メタルカ南軍之ヲ追撃セス要スルニ山東方面

ニ於テ北軍ノ内部混亂ニ陥リタルコトハ注目スヘキ現象ナリ  
奉天軍ハ郛城附近ニ於テ南軍ヲ阻止シ居タルカ西ニ馮玉祥軍ノ進出アリ又東方山東軍ノ形勢不利ト為リタルヲ見テ去月二十四日頃北京ニ於テ今後ノ作戰ニ付會議ヲ為シタルカ其ノ結果ニ案ヲ得タリ其ノ一ハ後方吉林軍ヲ徐州方面ニ増派シ孫傳芳ト協力シテ蒋介石ノ北進ヲ抑ヘ河南方面ヨリ積極的行動ヲ執リ以テ頽勢ヲ挽回シ張作霖ト蒋介石

トノ妥協ヲ容易ナラシメムトスルモノ他ノ  
一ハ吉林其ノ他各方面ノ兵力ヲ張家口北京  
附近ニ出シテ收容陣地ヲ作り之ニ據リテ總  
テノ兵ヲ退却セシメ再ヒ山海關ノ南ニ兵ヲ出  
ササルノ方針ヲ執テムトスルモノナルカ評  
議ノ結果第一案ニ決シタルカ如ク聽テ奉天  
軍ハ唐生智軍ニ對シ攻勢ヲ取りタルモ功ヲ  
奏セズ却テ大石橋附近迄退却シ同時ニ洛陽  
方面ノ軍隊ニ寢返リヲ打ツ者ヲ生シタル為  
偃師ニ退キテ稍ク馮玉祥ノ軍ト對陣セリ此

ノ對戰中閻錫山ノ態度尚不明ニシテ彼ハ或  
ハ奉天軍ノ不利ニ乘シ馮玉祥ト連繫スルコ  
トナキヤトノ懸念ヨリ奉天軍ハ馮玉祥ノ前  
進ヲ憂ヘ益戰況不利ニ向ヘリ依テ去月二十  
九日同軍ハ全線ヲ擧ケテ黄河ノ北方ニ移ル  
コトトシ先ツ彈藥等ヲ輸送シ次テ砲兵歩兵  
等ノ諸隊モ去月三十一日黄河ヲ渡リ北ニ向  
ヒタルモノト推定セラル之ト同時ニ山東軍  
ハ保定德州ニ後方陣地ヲ占メ之ヲ以テ收容  
陣地ト為サムトスルモノ如シ是レ或ハ太

原ニ於ケル閻錫山ノ進出ヲ顧慮セル結果ナ  
ラムカ張作霖ノ參謀楊宇霆北京ニ在リ其ノ  
方策ナリトシテ報告セテレタル所ニ依リ考  
フルニ北軍ハ今後保定德州ノ線ヲ守ルヘク  
更ニ已ムヲ得スムハ熱河天津ノ線ヲ維持ス  
ヘク或ハ全然此ノ方面ヲ棄テテ東山省内ニ  
入ルカトモ想像セラル然ルニ一方南軍ノ狀  
況ヲ見ルニ蔣介石ハ徐州ヲ取リタル上ハ前  
進セズ西方ニ於ケル戰爭ノ發展ヲ待キツツ  
カヲ内部ノ整理ニ盡シ時機ヲ得テ武漢ノ共

産政府ヲ排除スルノ舉ニ出ツルナムモ果  
シテ彼ノ力ヲ以テ其ノ目的ヲ達シ得ヘキヤ  
否ヤ疑ハシ又唐生智馮玉祥及閻錫山ノ三者  
ハ奉天軍ヲ退ケタル後ニハ共同ノ目的ヲ失  
ヒ為ニ却テ其ノ間ノ調和ヲ欽キ支那人ノ通  
癖トシテ互ニ相排擠スルニ至ルコトナキカ  
彼此考ヘ合ハスレハ今後ノ支那ノ戰局ハ實  
況ノ推移ヲ見タル上ナラテハ適當ノ判斷ヲ  
下シ難シ

前回報告シタル北京方面ノ列國ノ兵力ニハ

其ノ後多少ノ變更ヲ生シタレハ此ニ更メテ  
説明スレハ佛國ノ兵員ハ平時千五百十ルカ  
既ニ増加シタルモノ百二十増加ノ途中ニ在  
ルモノ八百外ニ砲兵一中隊（六月十五日到着  
ノ豫定ナリト謂フ）今後増加ノ豫定四百ヲ加  
ヘ合計二千八百二十外ニ砲兵一中隊ト為リ  
伊國ノ兵員ハ平時四百六十既ニ増加シタル  
モノ百五十増加ノ豫定三百五十合計九百六  
十ト為リ米國ノ兵員ハ平時ノ千三百ニ増加  
豫定ノ千五百ヲ加ヘテ二千八百ト為リ英國

ノ兵員ハ平時ノ一千ニ増加豫定ノ八百六十  
ヲ加ヘ千八百六十ト為ル此ノ外英國ハ多數  
ノ兵ヲ上海方面ニ出セルカ其ノ内ノ病人ヲ  
威海衛ニ送ルトノ名義ヲ以テ歩兵一大隊ヲ  
同地ニ派遣セムトス尚上海ノ英軍司令官ハ  
北支那ノ同軍司令官ト協議ノ上近ク一旅團  
（四大隊）ノ兵ヲ上海ヨリ北支那ニ移スヘシト  
ノコトナレハ此等ヲ合スルトキハ英國ハ北  
支那ニ於テ約五千ノ兵ヲ増スコトト為ルヘ  
シ帝國軍隊ノ青島ニ行キタルモノハ名ハ旅

團ナルモ兵數千九百六十ナリ此ノ軍隊ハ濟  
南其ノ他鐵道沿線ノ居留民ノ保護ノ目的ヲ  
有スルモノナルカ暫時青島ニ止リ何分ノ命  
令ヲ待ツコトト為リ居レリ  
倉富議長 田中内閣總理大臣及白川陸軍大臣  
ヨリ詳細報告セラレタルコトヲ感謝ス 本  
日ハ之ニテ閉會ス

〔午前十一時十五分閉會〕

議長男爵倉富勇三郎

書記官長ニヨリ

書記官

村上恭一

廣江香雄